

国

語

( 解答番号 )

1

}

37

(

## 国 語

試験時間60分

## 〔注 意〕

1. この問題冊子は指示があるまで開いてはいけない。
2. 受験番号が正しく記入・マークされていない場合は0点となる。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にマークすること。例えば、問題文中に 



 と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように **解答番号10の解答記入欄の③**にマークすること。正しくマークされていない場合は採点できないことがある。

(例)

解答番号	解答記入欄 (マーク)									
10	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

4. 問題冊子の各ページの余白は自由に使用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
5. 試験終了後、解答用紙は通路側に置くこと。なお、問題冊子は持ち帰ること。

## 〈マーク式についての注意〉

1. 機械が読み取って採点するので、折り曲げたり汚したりしないこと。
2. マークはHBの鉛筆で枠の中を濃く塗りつぶすこと。
3. 1つのマーク欄には1つしかマークしないこと。
4. 訂正はプラスチック消しゴムでよく消し、消しきずはきれいに取り除くこと。
5. 所定欄以外には何も書かないこと。

問題一 次のAの文章は夏目漱石の作品「趣味の遺伝」のあらすじを記したものです。また、Bの文章はこの作品の内容を話の発端として論じたものです。これをふまえて、後の各問に答えなさい。

【A】

日露戦争で戦死した親友の墓参りにいった主人公が、ある女性に出会う。親友が遺した日記から、彼女は親友が一目惚れして恋に落ちた相手だったと知る。さらに、一目惚れの原因を調べてみると、彼女が、親友の先祖にあたる武士が相愛になった美しい娘の子孫だと判明する。武士と娘は婚約するが仲を引き裂かれてしまった。互いの先祖に強いつながりがあったて惹かれ合って恋に落ち、しかしその恋が実らなかったことを、先祖から引き継がれた「遺伝」なのだ主人公は結論づける。

【B】

どんな恋愛を好むか、またどんなタイプを好きになるかには遺伝的影響がなく、基本的に状況によって人は誰でも恋に陥る可能性がある。それはきつと人間が進化的にヒトとなる前の〔1〕タイコタイコの昔から組み込まれた生物学的機構により、いわば節操なく異性を求めるという遺伝的性向をもっているからだが、話はそこで終わらない。実は人間でもキイロシヨウジヨウバエでも、相手はやはり選んでいるのである。

「似たもの夫婦」という言葉がある。長年寄り添った夫婦というのは、顔も似てくるというが、これは遺伝的なレベルで生ずることがある。それがアソータティヴ・メイティング (assortative mating) という現象である。これは文字どおり似たものどうしが結婚して子どもを作ることである。必ずしも社会的「結婚」という形態をとらなくてもよい。重要なことは遺伝的に類似した者どうしイの間に子どもができる傾向があるということである。アソータティヴ・メイティングの対立イはランダム・メイティングで、日本語に直訳するとそれぞれ節操のない「乱婚」ということになるが、人間の場合、知能指数〔2〕ロや社会的価値観に高いアソータティヴ・メイティングがあることが報告されている。つまり知能指数レベルの同じくら

いの人どうし、あるいは社会的価値観の近い人どうしが互いに恋に陥り、家庭をもつ可能性が高いということである。これが身長・体重やパーソナリティ特性ではほとんど見いだせず、この次元では「誰でもいい」らしい。

知能指数レベルが似るといのは、今の学歴社会のなかではある意味で当然かも知れない。似たような学力の人が高校・大学時代に集まるなかで恋が芽生え、同じような学歴の人が同じような職場に集うからやはりそこでも出会いが生じやすくなるということはあるだろう。知能指数 つまり知能検査で測られた心的形質というのは、文字どおりの知性・知能かどうかは別として、少なくとも論理的に決められたルールに従って答えをできるだけ正確に導く情報処理能力である。これが速い人と遅い人がいっしょになると、速い人は相手をまどろっこしく感じ、逆に遅い人は相手をせっかちと感じるだろう。同じく速いの速さで心を伝え合える人どうしの方が居心地がよいので、結果として知能指数にアソータティヴ・メイティングが見られるのかもしれない。

これはまだ論文化されていない研究のようで、学会発表で聞いた話だが、ふたこの配偶者どうしロのさまざまな心理的形質の類似性を調べると、一卵性の配偶者どうしの方が二卵性の配偶者どうしより似ているという。恋愛の好みとして相手の連れ合いは選ばないと言いながら、実は似たような人を選んで結婚していたというわけである。

知能指数や社会的価値観、その他さまざまな心理的形質の個人差は、基本的に〔注1〕ポリジーンによる影響を受け、それにさらにその人独自の環境からのさまざまな影響によって修飾が加わり、ロ ハ 別の様相を呈する。従って、そこに遺伝の影響があったとしても、漱石が描いたような家庭内の伝達ということが起こることは考えにくい。

さらに似ていない者ほど引き合うという証拠もある。それがMHC (major histocompatibility complex) という遺伝子である。夫婦の間ではこのMHCの型が違う場合が多い。これは免疫に関わる遺伝子である。ヒトは免疫という外界からの異物の侵入を防ぐ極めて重要なメカニズムを豊かに保つために、異なる免疫のタイプの遺伝子を組み合わせられるような仕掛けをした。それが体臭なのだそう。いろいろな体臭をしみこませたTシャツのにおいがかがせて好き嫌いを判断させると、自分

のMHCと似た型をもった人が着ていたものほどいやだと判断する傾向にあるという実験がある。私は自分の恋人を体臭で決めてなんかいないという人がほとんどだろうが、これは無意識のうちにもそのような判断をしているのだという。これは負の例である。

二

こうしてみると、恋心は節操のない生物学的現象といえながら、やはり「趣味」にはある程度遺伝の影響がある。しかしそれは特定の人と特定の人を運命的に結びつける赤い糸ほど強固なものではなく、また家系に伝わるものでもない。だが、このような生物学的説明に、恋する二人のあの燃え上がるような気持ちが納得いくだろうか。漱石の「趣味の遺伝」も「運命の赤い糸」という表現も、<sup>(a)</sup>あの恋ののつびきならなさ、「君しかない、あなたしかない」と一時的に、いや一生の間さえも信じ続けるための理由付けを、われわれの心性は求めているから生まれきた<sup>(2)</sup>シユウジなのではあるまいか。

私たちは物語を求めている。これはおそらく進化のプロセスで作られた大脳皮質が何らかの理由で物語的理解を必要としていたからとすら思われる。それくらい普遍的で強固なものだからだ。ユングの深層心理学も着目するように、あらゆる民族に大昔から語り継がれてきている神話や民話には多くの共通性・普遍性がある。物語の構造にも遺伝的基盤があること、そして進化的根拠があるであろうことが示唆されるゆえんである。それに比して近代科学の成立は<sup>(b)</sup>それよりもはるかに時代が下る。<sup>(c)</sup>うがった言い方をすれば、科学もまた一つの物語かもしれない。そのような言い方を好む人も少なくあるまい。だからこそ科学概念の「遺伝」が漱石の物語のテーマになり、今日の遺伝子ブームの源になっているのだ、と。

だがここであえて科学性と物語性に一線を引いた上で、両立をさせてゆくことの重要性を指摘したい。物語には物語の都合というものがある。それは美しく力強く壮大に、また時には悲しくあわれに、あるいは軽妙に<sup>(d)</sup>諧謔的に語られることを目指している。恋は物語である。始まりと終わりがあり、そこには美しさもあれば悲しさもある。科学的営みはそうした物語的「都合」とは無関係であることが求められる。これを価値中立性などと呼ぶこともあるが、それは科学の本質が、「注2」アプリオリに価値中立なのだということではなく、人間が放っておけば語りたくなるようなストーリーの題材にすることを断固として拒む意志をもたねばならないという態度表明である。科学は人間のご都合に従うのではなく、自然のご都合に人間の頭を従わせ

ようという不断の営みである。だから人間の作る物語に従うということは、そもそも科学の営みとしてルール違反なのだ。

しかし人間の物語は、<sup>(e)</sup>物語としての独自の価値をもっている。その一つの好例が「教育」である。たとえ遺伝的に、生物学的に、何かをする能力が乏しいということが示されたとしても、もしそれをするに、それを求め続けることに物語としての価値があるならば、教育を通してそれを実現し続ける価値がある。なぜなら、そのような営みから予想もしないさらなる物語が生まれ、その物語を語り続けることに意味があるからである。そこには「法則性の発見」という科学の目指すような意味での終結点はない。

恋も同じだ。人類が遺伝子や進化を発見する以前から語られ続けてきた恋の物語は、遺伝子や進化の方が恋の物語を語る装置としての脳を作り上げたのだという時間的順序を忘れて、それ自体の世界で無限に物語を作り続ける。そのプロセスが尊いのである。かくして科学性と物語性は、どちらかがどちらかに吸収されるのではなく、それぞれの世界の目指すところをもとめ続けていくのであろう。

(安藤寿康「赤い糸の生物学」による。一部改変)

〔注1〕 ポリジーン…量的形質に関わる遺伝子群。

【出典…赤い糸の生物学「恋の研究」所収】

〔注2〕 アプリオリ…ラテン語で「先天的」の意。

問一 傍線部(1)、(2)の片仮名に該当する二つの漢字と同じ漢字を使うものとして最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

1  
～  
4

- |  |         |  |
|--|---------|--|
| (1)<br>① 武士がタイトウする<br>② タイギ名分がある<br>③ タイヘイラクを言う<br>④ タイカンシキに出席する | タイ<br>コ | (2)<br>① オンコ知新<br>② コキを祝う<br>③ コダイ広告<br>④ カコを顧みる |
|--|---------|--|

- |   |          |   |
|---|----------|---|
| (2)<br>③<br>① シユウシン時間を守る<br>② カンシユウを破る<br>③ シユウシユウがつかない<br>④ シユウドウインの中庭 | シユウ<br>ジ | (4)<br>④<br>① ジンジを尽くして天命を待つ<br>② 巻末にシヤジを記す<br>③ ジゼン活動に尽力する<br>④ 納豆はジヨウに富む |
|---|----------|---|

問二 空所イに入る語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

5

- ① 言語    ② 思想    ③ 概念    ④ 要素    ⑤ 理論

問三 空所ロ、ハに入る漢数字と同じ組合せで、各空所に用いる四字熟語を、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

6

- ① □年□日    ② □死□生    ③ □日□秋    ④ □客□来    ⑤ □転□倒

問四 空所ニに入る語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

7

- ① 免疫    ② メカニズム    ③ 心理的形質    ④ アソータイヴ・メイティング    ⑤ 情報処理能力

問五 波線部(a)に使われている「のつびきならない」と類似する意味をもつ慣用的表現の用例として最も適切なものを、

8

- 次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。
- ① 太郎は隠し事が露見して進退きわまった。  
 ② 次郎は断腸の思いで愛蔵品を処分した。  
 ③ 三郎は大金に目がくらんで親友を裏切った。  
 ④ 四郎は身を焦がす熱い思いを手紙に綴った。  
 ⑤ 五郎は辛酸をなめたことを糧に成功した。

問六 波線部 (b) が指す内容として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

9

- ① 物語の構造がもつ進化的根拠      ② 物語の構造がもつ遺伝的基盤      ③ ユングの深層心理学  
④ 物語の誕生      ⑤ 人間の進化のプロセス

問七 波線部 (c) と筆者が考える理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

10

- ① 大昔から語り継がれてきた神話や民話には多くの共通性・普遍性があるから。  
② 近代科学の成立は物語の創生よりもはるかに古い時代のことだから。  
③ 物語に対する人間の欲求は、普遍的で強固なものだから。  
④ 物語の構造にも遺伝的基盤、進化的根拠があるから。  
⑤ 漱石が「遺伝」を小説のテーマにしたり、遺伝子ブームが巻き起こったりしたから。

問八 波線部 (d) の用例として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

11

- ① ベットを飼う人には命の世話をするという**諧謔性**が必要だ。  
② 深刻な話も**諧謔**を含みながら話せば場の空気が和むだろう。  
③ 法律用語は**諧謔**的なので一般人が理解するのは非常に難しい。  
④ 前途ある若者の未来を奪う**諧謔**を決して許してはならない。  
⑤ 戦場の悲惨な光景を目にして**諧謔**的な心地になるのは当然だ。

問九 波線部 (e) を説明したものとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

12

- ① 科学的な判断では能力が低いとされたとしても、努力し続けることで得られる喜びや感動に価値があるということ。  
② 遺伝的・生物学的に何かをする能力が乏しくても、教育により能力を向上させることに物語の価値があるということ。  
③ 物語にはそれぞれに独自の価値観が語られ、そこに科学的法則は見出せないが、その多様性に価値があるということ。  
④ 教育は人それぞれの価値観を尊重し育むため、法則性を見極めようとする科学における価値とは異なるということ。  
⑤ 科学は「法則性の発見」という終結点に価値をもつが、物語はそれが生成し伝承される過程に価値をもつということ。

問十 Bの文章の主旨として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

13

- ① 家系での悲恋の連鎖の原因を遺伝に見出すという、漱石の小説「趣味の遺伝」は、現代の科学的見地から断ずれば荒唐無稽な内容である。しかし、恋心という生物学的現象を物語的理解によって説明した点で価値のある作品である。
- ② 遺伝子や進化が恋の物語を語る装置としての脳をつくり上げたのだから、科学的理解は物語的理解に先行する人間の営みである。よって科学は物語とは一線を画すべきもので、それぞれの世界の目指すところを希求し続けるだろう。
- ③ 科学は人間の都合に従うのではなく自然の都合に人間の頭を従わせようという不断の営みである。したがって、科学が人間に授けた科学的理解や知識は人間が生み出した物語に優るものであり、科学を物語に従わせるのは間違っている。
- ④ どんな相手に恋心を抱くかという「趣味」にはある程度の遺伝の影響がある。こうした生物学的現象を題材とした、漱石の小説「趣味の遺伝」は、科学を物語に吸収し一体化させた点において画期的な作品である。
- ⑤ 科学に人間の紡ぐ物語は不要である。しかし、人間が必要とするのは科学だけではない。むしろより根源的なところまで人間が求めてきたのは物語である。したがって、科学と物語を峻別しつつも両立させていくことが重要である。

問題二 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

デュラントは人間が文明を作ったのではなく、文明が人間を作ったと主張するが、それでもなお文明は人間をその「キティ」として成り立つものであり、人間の本性から「イ」した文明はあり得ない。

そこで、まず人間の本性を明らかにしておかなければならないが、人間は個的な存在であると同時に社会的存在である。一個の人間は独生独死の運命にあり、皮膚によって外界から隔てられ、頭骨によって覆われた頭脳で独自に思考する。それでいて人間は社会の中に生まれつき、社会で用いられている一つないし複数の言語を習得し、意識と認識力を土台に、感性と理性の助けによって思考力を発達させるのは、個的存在と社会的存在の相互作用によってである。一人の人間には必ずこの二面性が同時に存在する。

和辻哲郎はこれを一部肯定し、一部否定して全体の構成員としての側面が優先すると主張するが（『倫理学』一）、我々は全体の中にいるというより、様々な人々と様々な形で「邂逅」し、その都度そこに社会的空間を「ロ」に築いて参入し、社会的存在としての本領を発揮する。ハイデガーが人間は「世界内存在」であるとしているのはこのことを意味するのかもしれない。

しかし、同時に個的存在である各人にプライベートとも呼ばれる私的生活空間があり、亀の甲のように各人に背負われて社会的空間に参入する時にもついて回る。人間が自己成長するのも社会的空間における他者との相互作用を通じてである。彼が居住地に帰還した時に、個的存在は社会的空間から一切解放されて彼ないし彼女本来の姿を取り戻す。

そこでは人の目から解放され（ハンナ・アレントは人から見られることを公共性と言った）、ほっと安堵し、人間の尊厳を味わうことが出来る。自己成長の契機は社会的空間にあるが、その成長の成果を実感して味わうのは私的生活空間においてであり、更なる成長の準備を試行錯誤しながらも整えるのも私的生活空間において解放された自我としてである。彼が社会的空間において行なった結果に対する責任を負う用意をするのも私的生活空間においてである。このように人間の生活は私的生活

空間と社会的空間をピストンの如く行き来しながら成り立っている。

社会的空間が間欠的ではなく、

I

に構成されるものには家族、学校、企業その他の団体、国家などがあり、シス

テムとして

ハ

され、社会的役割を提供して個々の人間をその中に位置付ける。それらは連続として続く文明の一部を

構成し、各人の文化的創造の活動の源泉となる。それを動かす原動力は人間各人にあり、人間は文明によって作られたものであるとしても、各人によって担われなければ文明は消滅する。和辻哲郎が人間を全体の一部として捉えた心情は理解するが、

全体もそれを構成する個が消滅すれば存在し得ないのである。これはまさに文明についても言えて、その担い手がいなくなれば自然に消滅するのは歴史が証明してきたところである。

人間のこの二面性の本質によって文化が継承され、文明の糸が紡がれていく。人工知能もこのようにして継承された文化的創造の産物として生まれ、その成果は文明により吸収され、新しい創造の原理の温床となる。人工知能の中に組み込まれるアルゴリズムにしても、個人または複数の人間によって開発され、彼または彼らの頭脳の働きに依存するが、それとて、社会的に蓄積された知識やノウハウ、より具体的には微分積分を含む高度の解析技術があればこそであって、それが土台とならなければ、新たな発想も創造も不可能である。そこに、西田幾多郎が言う「作られたものから作るものへの転換」がある。人間の本性に個的存在であると同時に社会的存在であるという二面性があればこそ、この劇的な転換も可能になる。

アルゴリズムとは問題解決ないし目標達成の方程式であり、不確実性をゼンジ晴らして前進し可能な道筋を探索する指令書であって、プログラマーと呼ばれる特定の人が社会的に蓄積されたノウハウを駆使して作成するが、一度機械の中に組み込まれると、人間の手を離れ、それに従って目下どのような計算が行われているかは機械の外には見えなくなる。アルゴリズムはどんな決定をしても、どうしてその決定をしたかの理由は説明せず、そのため、ブラックボックスと考えられることがしばしばである (Michael Luca et al. "Algorithms Need Managers, Too")。それでも、その目的とするところは人間によって与えられたものの以外の何ものでもない。たしかにそれは個人ないし数人のグループによって開発されたものであるに相違ないが、そこには文明の中に沈殿した知識やノウハウが生かされて活用され、それによって動機づけられる文化的創造の原理が働

いている。その意味で、

II

(片岡寛光『人間と人工知能―文明論的考察―』による。一部改変)

問一 傍線部(1)、(2)の片仮名に該当する二つの漢字と同じ漢字を使うものとして最も適切なものを、次の①～④の中から

一つずつ選び、マークして答えなさい。

14

17

(1)

14

- ① 彼のシヨキの画風である
- ② キリツ正しい生活を送る
- ③ キシヨウ時間を守る
- ④ 青をキチヨウとした配色

キ  
テイ

15

- ① 法案を国会にジョウテイする
- ② テツテイした対策をとる
- ③ 事故の原因をスイテイする
- ④ 調査によって誤りがロテイした

(2)

16

- ① いつもタイゼン自若としている
- ② 生産量がゼンゾウする
- ③ ゼンジン未到の距離に挑む
- ④ 家屋をシュウゼンする

ゼ  
ジ

17

- ① 支援の申し出をコジする
- ② ジキユウセンに持ち込む
- ③ スウジにわたり交渉を行う
- ④ 機密情報のカイジを受ける

問二 空所イ～ハに入る語として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

18

20

イ

18

- ① 露見      ② 派生      ③ 飛躍      ④ 乖離      ⑤ 分岐

ロ

19

- ① 戦略的      ② 重層的      ③ 皮相的      ④ 画一的      ⑤ 形式的

ハ

20

- ① 制度化      ② 相対化      ③ 均質化      ④ 同一化      ⑤ 抽象化

問三 波線部（a）の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

21

- ① 大いに憎み合うこと      ② 互いに競い合うこと      ③ 誠実に切磋琢磨すること  
④ 偶然に巡り会うこと      ⑤ 未永く助け合うこと

問四 空所Iに入る語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

22

- ① 保守的      ② 恒常的      ③ 一時的      ④ 進歩的      ⑤ 急進的

問五 空所IIに入る文として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

23

- ① 人工知能は人間の手から離れ自己成長を遂げていく産物なのである。  
② 人工知能は人間が生み出したものであるが、その過程は人間から解放された産物なのである。  
③ 人工知能は複数の人間によって開発され、個的存在である人間がくり上げた産物なのである。  
④ 人工知能はその目的を人間によって与えられた、人間の中で想像された産物なのである。  
⑤ 人工知能は人間の外に生まれるものではなく、人間の内なるものの産物なのである。

問六 本文の内容に即した記述として最も適切なものを、次の①～⑧の中から二つ選び、マークして答えなさい。ただし、解答の順序は問わない。

24

25

- ① 人間は社会的空間から解放された個性と自由を尊重されるべき存在として位置づけられる。  
② 社会的な産物でもある人工知能にとって、そこに組み込まれるアルゴリズムなどは本質的に重要なものではない。  
③ 自己成長は、私的生活空間における個人的努力によってのみ成し遂げられる。  
④ 人工知能もまた、人間が紡いできた文明の蓄積に基づいてつくられている。  
⑤ 各人の文化的創造の源泉は、居住地に帰還し一切を解放された私的生活空間における自我にこそ存在する。  
⑥ 高度な解析技術という文化的創造物とは異なる数学的な産物によって開発されるところが人工知能の独立的な深化を生み出している。  
⑦ 人間の本性とは異なり、個的存在と社会的存在という二面性にとられることのない発達を見せるところが人工知能の特色である。  
⑧ 個的存在であると同時に社会的存在であるがゆえに、人間は創造的な活動を担うことができる。

## 問題三 次の各問に答えなさい。

問一 文意が一通りに限定されるものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

26

- ① 兄は母と父が生前よく通っていた洋食屋へ行った。
- ② 今朝、駅前のコンビニで僕は弟と幼なじみの森田君に会った。
- ③ 娘は公園で三輪車に乗って走る友人を追いかけていた。
- ④ 私の父は海の幸をふんだんに使った地中海料理を出すレストランのシェフだ。
- ⑤ 私は幼い頃から植物好きな姉と一緒に野山へ出かけては山菜採りを楽しんでいる。

問二 (1)～(3)の文の【 】に入る語として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして

答えなさい。

27

29

(1) たいしたことをしたわけではないのに、大勢の前で仰々しく表彰され、何とも【 】気持ちだった。

① おぼつかない

② 片腹痛い

③ まがましい

④ おもはゆい

⑤ 寒々しい

27

(2) 秋の夜空に浮かぶ満月を眺める心静かなひとときは、まさに【 】千金である。

28

① 一時

② 一獲

③ 一刻

④ 一日

⑤ 一期

(3) 大金の入った財布を落としたので、警察で【 】してもらったが、結局見つからなかった。

29

① 紹介

② 詳解

③ 商会

④ 照会

⑤ 哨戒

問三 ことわざや慣用表現を用いた(1)～(5)の文の空所に入る語として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

30

34

(1) あの議員は、いつの間にか牛を【 】に乗り換えて主流派についたようだ。

30

① 馬

② 象

③ 虎

④ 鷹

⑤ 兎

(2) 後がないというところまで追い詰められたが、【 】猫を嘔むといった反撃が功を奏した。

31

① 坊主

② 脱兎

③ 老馬

④ 窮鼠

⑤ 瓢箪

(3) 自分の頭の上の【 】も追えないのに、他人の世話などできるわけがない。

32

① 蜂

② 蠅

③ 蚊

④ 虻

⑤ 蜘蛛

(4) ようやく絶好のチャンスがやってきた。まさに待てば海路の【 】ありだ。

33

① 日和

② 兆し

③ 恵み

④ 祈り

⑤ 光

(5) いくら忠告しても【 】に腕押しで、改めようしない。

34

① 土俵

② 土鈴

③ 豆腐

④ 木綿

⑤ 暖簾

